



入繪

竹母狂言抄語

下

特別
~13
4188
3



持
13
1188
3



竹杖の物語下

竹母初くうろく付た中紀行

かゝても者いとりづあゝあづまはるをさるる
とも人あまのうろく。後羅綿繻けうろくか
ひまゝとれはせれはうふんえまろく竹母いに
らゝ今そ人にとらづらんねもさかむとさ
御指しうろくまのうろけりあゝあづまはる
あゝあづまはるのうろくそとさるるもさるる
思ふ橋をうろけりあゝあづまはるのうろく
あゝあづまはるのうろくそとさるるもさるる

カキ

竹女下

あまのこゝろをたゞしき心にてしるす
しるす心にてしるす心にてしるす
しるす心にてしるす心にてしるす
しるす心にてしるす心にてしるす
しるす心にてしるす心にてしるす
しるす心にてしるす心にてしるす
しるす心にてしるす心にてしるす
しるす心にてしるす心にてしるす
しるす心にてしるす心にてしるす
しるす心にてしるす心にてしるす



十
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

もねいのもちをいふは金けまうづね
いふもねいふもねいふもねいふもねいふ
とらふもねいふもねいふもねいふもねいふ
あしんぐねいふもねいふもねいふもねいふ

はらりいふもねいふもねいふもねいふもねいふ
もねいふもねいふもねいふもねいふもねいふ

もねいふもねいふもねいふもねいふもねいふ
乃奥あまねいふもねいふもねいふもねいふ
よ長者いふもねいふもねいふもねいふもねいふ
の竹母老いふもねいふもねいふもねいふもねいふ

一あまねいふもねいふもねいふもねいふもねいふ
てねいふもねいふもねいふもねいふもねいふ

かりもねいふもねいふもねいふもねいふもねいふ
やそいふもねいふもねいふもねいふもねいふ

あしんぐねいふもねいふもねいふもねいふもねいふ
よそいふもねいふもねいふもねいふもねいふ
あまねいふもねいふもねいふもねいふもねいふ
光母あしんぐねいふもねいふもねいふもねいふ
あしんぐねいふもねいふもねいふもねいふもねいふ
あしんぐねいふもねいふもねいふもねいふもねいふ
あしんぐねいふもねいふもねいふもねいふもねいふ

竹母

四

然るに... 實徳ひて... 只るあん... 正めらう... 一しあ... かり... あ... 一よ... と...

ませ... あり... たり... たり...

日本橋鎮守三浦大明神

かし... 因法師... 皇政の... 紫...



て竹舞るあやよあるいあつまはれあり
 とやとそまはれいよいよたのいも一曲た
 び一節あまをほくしてあけいあるい
 ころあはれいん一節あまをいし
 ちいりれぬとささくを二平あはれとた
 むまはれとよまはれも終れ今とあまをい
 ま用桃李花開日 秋雨梧桐葉落時
 あつすらしりしりしりかたりこく
 今いよや黄金用書祝辞止男とるりて
 まあしよゆき一節とこりける

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

詩^カをゆめれらよゆめれあつらん
て^カ出^カ離^カ出^カ元^カ頓^カ延^カ善^カ撰^カと打^カ傳^カて
あよあつらんひそくひそくひそく
つきまらり。ひそくひそくひそく
き^カ池^カあり。ひそくのひそくひそく
ま^カり。ひそくひそくひそくひそく
文^カ禄^カのひそくひそくひそくひそく
あ^カつらんひそくひそくひそくひそく
あ^カつらんひそくひそくひそくひそく
あ^カつらんひそくひそくひそくひそく
あ^カつらんひそくひそくひそくひそく

のらもひかりよたまたまあつらん
乃^カらひそくひそくひそくひそく
今^カつらんひそくひそくひそくひそく
あ^カつらんひそくひそくひそくひそく
あ^カつらんひそくひそくひそくひそく
あ^カつらんひそくひそくひそくひそく
あ^カつらんひそくひそくひそくひそく
あ^カつらんひそくひそくひそくひそく
あ^カつらんひそくひそくひそくひそく
あ^カつらんひそくひそくひそくひそく

廿六

廿五



てぬりぐら〜しうらまの〜あれをば〜こぬり
 き〜いのの古賢老子此〜新〜とあう〜めさ
 せ〜やゆぐ〜さ〜た〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ
 民〜し〜ぬ〜ん〜み〜し〜め〜あ〜い〜ぬ〜り
 と〜し〜こ〜れ〜を〜か〜を〜ま〜り〜り〜の〜ま〜し〜し〜こ〜し〜は
 こ〜れ〜何〜が〜し〜も〜れ〜こ〜ま〜り〜り〜の〜新〜の〜中〜の
 何〜う〜さ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
 て〜の〜ら〜り〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
 せ〜り〜や〜あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
 せ〜あ〜あ〜あ〜あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら



まゝのうゝうゝくくくくくくくくくくくく
 此の命
 しんせんやねりもめらんはひ餅
 老かぶ宮くうとをくれ

よくやうにたのび候きりりりと地蔵よ
 あつらひのりゆきとまらふらふあけけ
 してよあつまはてこまりまらふたの
 きこえんかき世女のはきありし
 つげあつまをほれくあけは結らふよ
 尸入の傍ありけの傍とまらふら
 とたのむゆりしよまは傍くも
 えんかき世女のつらとまらふよ
 きこえんかき世女のつらとまらふよ
 て世女と清あつてありしよまはせ

中より世女とまらふらふらふら
 事ごとくまらふらふらふら
 ことびこんよまは世女とまらふら
 名傍きりゆらまはせとまらふら
 ころとまらふらふらふらふら
 一はわりらふらふらふらふら
 もはよく世女とまらふらふら
 さねもこれら娘語のまらふらふら
 あつらひらふらふらふらふら
 とらふらふらふらふらふら

さうは下ついでにせよとてさういふなりしう
る部とありと云えんやうにせよとて

くさりくあしやうせうさかたの
うかううとれぶ部いぬり

これいらふちとんまもれはらふ
けいふらうらうらうらうらうらうらう
も後れははれんくもらうらうらうらう
てぬやせはれんくもらうらうらうらう
うまけらうらうらうらうらうらう
はらうらうらうらうらうらうらう
湖のれらうらうらうらうらう
越王辞

せしんまゐる句賤の代となり西施と我
もれやせよとのれ切なりなげに
そまにのれいふまにけぬらうらう
地くこもらうらうらうらうらう
る山寺れらうらうらうらうらう
きまそは法の無事なれらうらう
うらまにそあひのたけのれ付つき
ぬらやうらうらうらうらうらう
らうらうらうらうらうらうらう
まねさうらうらうらうらうらう

